

(令和2年度) 自己評価表

愛媛県立宇和島東高等学校 (定時制)

学校番号 40

教育方針	人格の完成を目指して、敬愛・自律・進取の精神を培い、21世紀をたくましく生きぬく心身ともに健康な生徒の育成に努めます。	重点目標	自らを信じ 自らを鍛え 夢の実現を
------	---	------	-------------------

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
自己実現	わかる授業・考える力が身に付く授業の実践	生徒の授業満足度100% A : 100% B : 99~90% C : 89~80% D : 79~70% E : 70%未満	B	授業満足度のアンケート結果は、96% (5点満点中4.8) であった。	生徒の自己実現がかなう履修選択ができるよう、時間割編成等を精査するとともに、相互授業参観週間や各種研修を通して、教員の資質向上を図る。
		教員の研修参加5回以上・授業参観・研究授業参加5回以上	B	研修については、全ての教員が5回以上参加した。授業参観・研究授業については、ほぼ全ての教員が5回以上参加した。	積極的に各研修に参加し、教員の資質・能力の向上に努める。相互授業参観週間の実施時期や回数を精査し、授業に関する教員間の交流の機会が増えるように工夫をする。
	学習習慣の確立	各教科小テスト月1回以上	B	各教科で小テストに取り組んでいるが、回数については教科間で差があるものの、月に複数回実施している教科もあった。	学習意欲向上に向けて、より一層考慮した小テストを実施するとともに、生徒の学習習慣の確立について、今後も粘り強く取り組む。
希望進路の実現		進路指導講話4回以上	B	年度内に、進路セミナー1回と講話2回の合計3回を実施する見込みである。	進路セミナーにおいては、生徒の進路意識向上に向けた内容の充実を図る。
		就職内定(正規採用)率100%、進学決定率100% A : 100% B : 99~90% C : 89~80% D : 79~70% E : 70%未満	C	進学希望者4名全員合格。就職希望者10名中7名合格。残り3名は現在のアルバイト先の継続か新規就職かを検討中である。	全員が第一希望に合格できるように、次年度も早めの指導を実施し、進路意識の向上を図る。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
心身健康で豊かな心	基本的生活習慣の定着	挨拶の励行と式典での正装率100% A : 100% B : 99~90% C : 89~80% D : 79~70% E : 70%未満	B	式典における正装率は100%であった。挨拶については、数名自発的にできない生徒がいたが、会釈で返すことができた。	正装については、引き続き指導の徹底を図る。挨拶については、日頃からの生徒とのコミュニケーションを大切にし、自発的な挨拶を促す。
		年度末出席率90%以上 A : 90%以上 B : 89~80% C : 79~70% D : 69~60% E : 60%未満	B	1月末までの集計結果は、88.3%であった。	臨時休業等の影響も大きく、昨年度に比べて欠席が増えているため、個別支援により一層力を入れる。
	自分を大切にし、他人のことを考えて行動できる生徒の育成	人権侵害・いじめ防止のための取組20回以上 A : 20回以上 B : 19~17回 C : 16~14回 D : 13~11回 E : 10回以下	A	ホームルーム活動での取組や学校生活のアンケート調査、全校面談など21回実施した。	回数の確保だけでなく、生徒への伝え方を工夫するなど、よりよい指導のあり方について検討する。
		<u>ボランティア活動2回以上参加100%</u> A : 100% B : 99~90% C : 89~80% D : 79~70% E : 70%未満	E	1月末までの集計結果は、7回の活動のうち、2回以上参加した生徒は36%、1回以上参加した生徒は96%であった。	清掃活動だけでなく、多様な生徒が興味を持って参加できる活動を工夫する。
	一人一人の尊重及び悩み・トラブルの解消	正担任面接5回以上、副担任面接2回以上	C	1月末までの集計結果は、正担任面接5回以上は75%、副担任面接2回以上は25%であった。	正担任だけに負担が偏らないよう、副担任面接についても充実させる。
	コミュニケーション能力・表現力の向上	生徒生活体験発表の指導の充実・県大会入賞(4位以内)	B	校内生徒生活体験発表大会に向けて全生徒が作文を書き発表した。南予大会に3名が出場し、1名が最優秀を受賞した。県大会に出場できたが入賞には及ばなかった。	様々な行事において、感想を書かせることにより表現力や作文を書く力の向上に努める。さらに、県大会に出場できる内容と発表の仕方(原稿を見ない等)について工夫する。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
魅力ある特別活動	生徒主体の学校行事	学校行事満足度100% A：100% B：99～90% C：89～80% D：79～70% E：70%未満	B	「大変満足」「満足」「概ね満足」を合わせると98%であった。	全ての行事において、前例踏襲とならないよう、生徒の実態に応じ、興味を持って取り組むことができる内容に工夫する。
	部活動の充実	県定通総体参加率90%以上 A：90%以上 B：89～80% C：79～70% D：69～60% E：60%未満	—	予定されていた大会が中止となった。その代替として開催された交流試合に、バドミントン部2名とバスケットボール部7名が参加した。	できる限り、全ての生徒に選手として参加するよう促し、参加率90%以上を目指して指導を行う。
		部活動重点活動日における生徒参加率60%以上 A：60%以上 B：59～55% C：54～50% D：49～45% E：45%未満	E	1月末までの集計結果は、34%であった。個別の参加率では、60%を超えた生徒もいた。	県総体や定通大会だけでなく、生徒の目標となる試合や活動を定期的に各部で決定し、参加率の向上につなげる工夫をする。
業務改善	適切な勤務時間	<u>1か月の時間外勤務時間の合計30時間以内100%</u> A：100% B：99～90% C：89～80% D：79～70% E：70%未満	B	1月末までの集計結果は、94.0%であった。概ね業務量は適正であり平準化できている。	勤務時間を意識した働き方を浸透させ、更なる業務の適正化と効率化を図る。
	ワーク・ライフ・バランスの適正化	<u>ワーク・ライフ・バランスが取れていると感じる教職員の割合100%</u> A：100% B：99～90% C：89～80% D：79～70% E：70%未満	A	調査結果は、「十分取れている」「取れている」を合わせて100%であった。	心身の健康はもとより、仕事も家庭生活も充実させることができるよう、引き続き、適正な休暇取得を推進する。

※評価は5段階（A：十分成果があった B：かなり成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）